

抗ウイルス受託試験のご提案

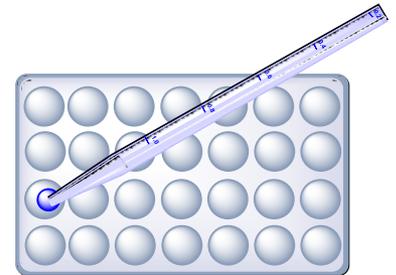
株式会社プロテクティア

0: 抗ウイルス/抗菌活性部材の 開発・受託試験

大阪大学での高い研究グレードと様々な部材開発を行ってきた当社の実績を活かし、研究開発のアーリーな段階での評価を全般的にサポート致します。

抗ウイルス試験

- A/Perto Rico/34 (H1N1) 感染試験用株
- A/Beijing/262/95 (H1N1) ワクチン樹立株
- A/Panama/2007/99 (H3N2) ワクチン樹立株
- B/Yamanashi/166/98
- Feline calicivirus(F9) ノロウイルス類縁ウイルス
- Human rotavirus MA-104



抗菌試験

- Staphylococcus aureus
- Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus
- Klebsiella pneumoniae
- Pseudomonas aeruginosa
- Escherichia coli
- Staphylococcus epidermidis
- Propionibacterium acnes
- Mycoplasma pneumoniae

- シーズ化合物の探索 (例: 1試験9.2万円~)
- 50%感染阻害濃度の定量試験 (例: 25万円~)
- 部材の特殊抗ウイルス・抗菌試験
- コンサルティング
- 公的助成事業への共同申請及び受託

0: 抗ウイルス・抗菌試験方法の一覧

複数のシーズ化合物の有効濃度を検討したい方にオススメ

→ 直接ウイルス不活化試験(プラーク形成阻害法)

作成したプロトタイプ製剤の抗ウイルス活性を対数値で評価したい方にオススメ

→ 対数減少値(Log reduction) 測定試験(プラーク形成法、TCID50法)

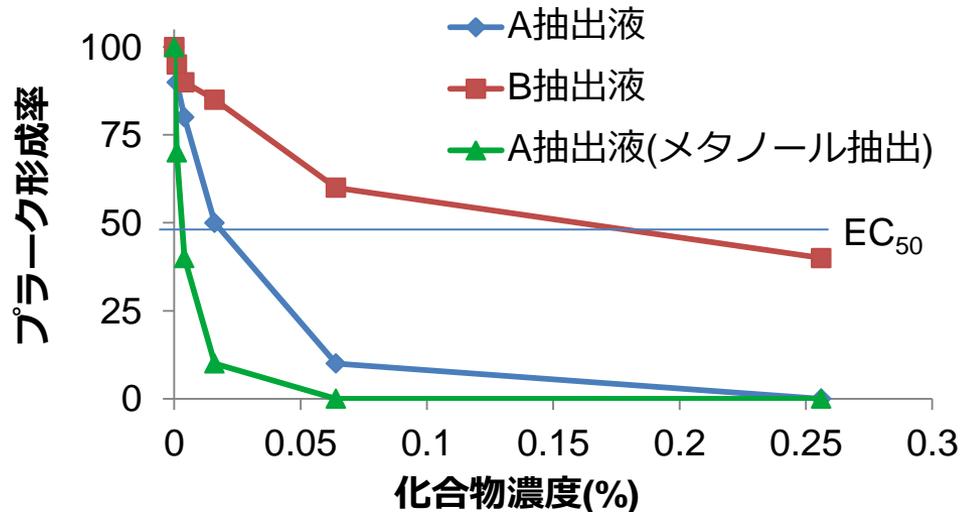
その他、赤血球凝集阻害試験、発育鶏卵を用いた感染阻害試験、
各種機器分析などが可能です。詳細はお問合せ下さい

1: 直接ウイルス不活化試験 (プラーク形成阻害法)

ウイルスを不活性化できるシーズ化合物の濃度を測定する試験方法。
→シーズ化合物探索時の化合物のスクリーニングや、有効濃度検討に！

試験可能ウイルス：インフルエンザウイルス(H1N1、H3N2、B型)、
ネコカリシウイルス(F9)

実施例：サンプルごとでの抗ウイルス活性の比較



サンプルの濃度を振って活性を確認することで、サンプル毎に抗ウイルス活性のポテンシャルを測定・比較できます。

2: 対数減少値(Log reduction) 測定試験 (プラーク形成法、TCID50法)

プロトタイプ製剤等、サンプルの持つ抗ウイルス活性を評価する方法

- アルコール製剤や塩素系製剤などの細胞毒性の可能性がある製剤の評価
- 複数の組成のプロトタイプ製剤の比較
- 1種類の試験サンプルを色々な条件で測定したい場合
(作用時間の検討、夾雑タンパク負荷量の検討、

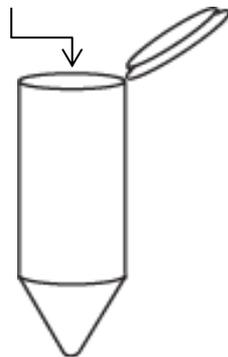
- 試験可能病原体：インフルエンザウイルス(H1N1、H3N2、B型)、
ネコカリシウイルス(F9)
ブドウ球菌(MSSA、MRSA)、大腸菌、緑膿菌、
肺炎桿菌、アクネ菌※

※アクネ菌は料金が異なります。お問合せ下さい。

例：プロトタイプ製剤の抗ウイルス試験方法 (製剤のTime-Kill試験)

作成した消毒剤がどれくらいで作用するのか、
抗ウイルス活性を測定したい場合
(時間0、5、15、30、60分の計5条件)

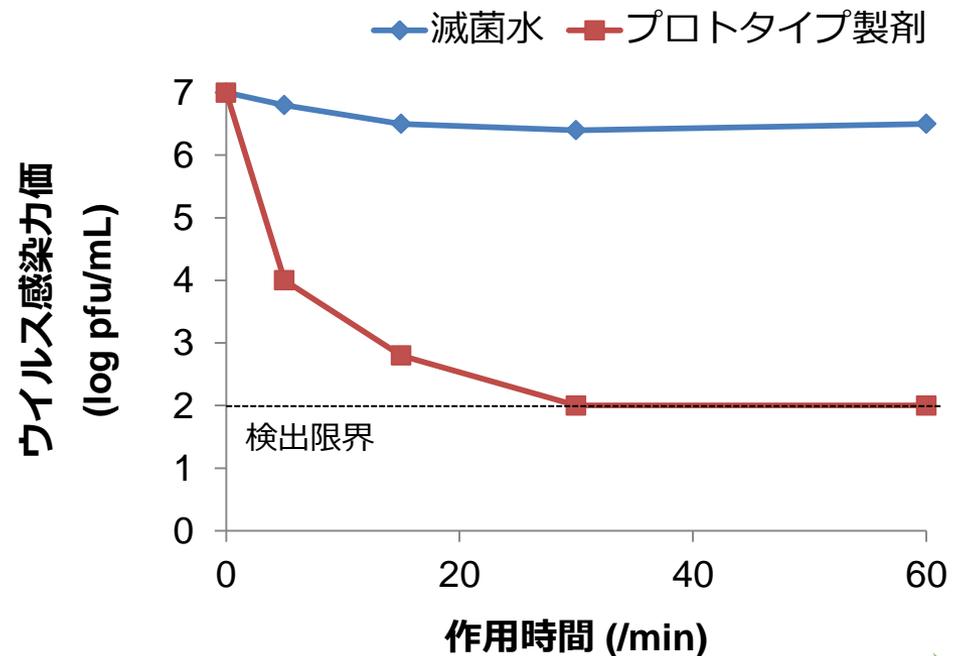
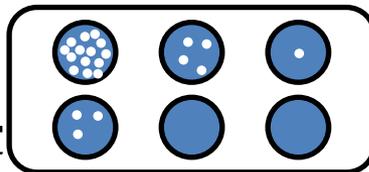
ウイルス液 0.1 mL
(1×10^7 pfu/mL)



プロトタイプ製剤
0.9 mL

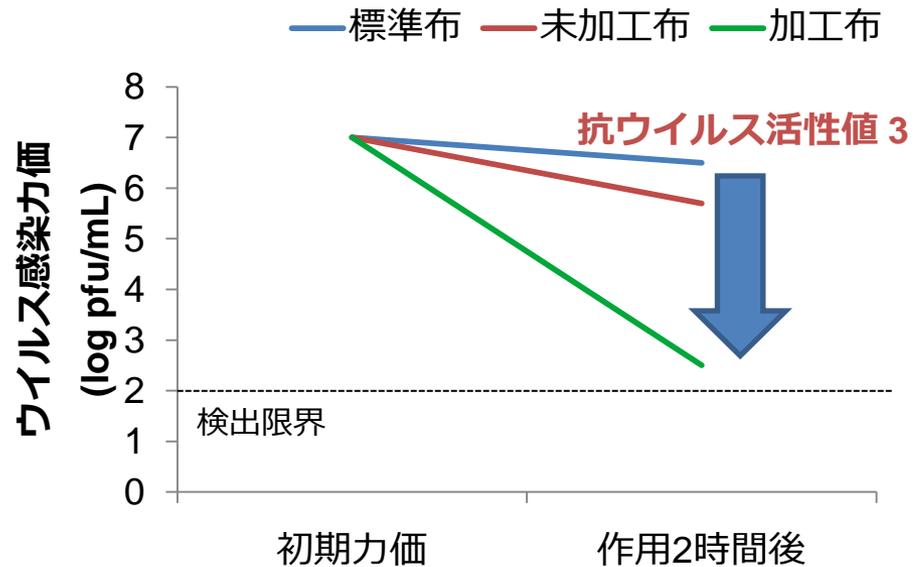
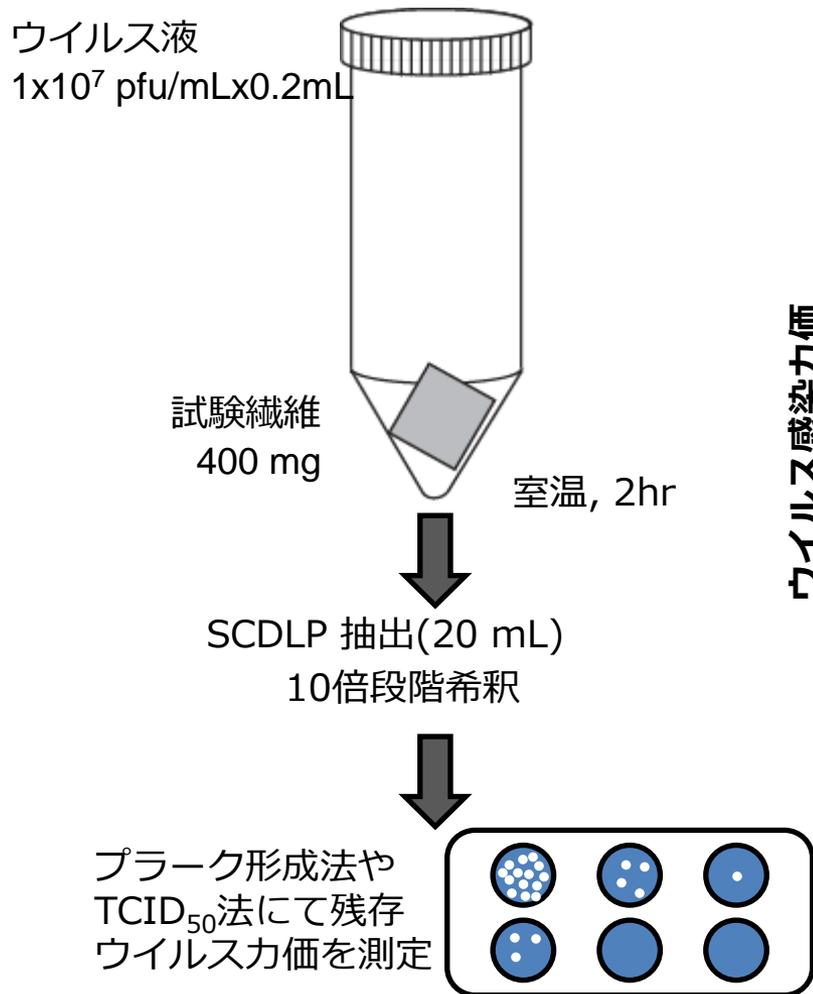
0、5、15、30、60分静置
10倍段階希釈

プラーク形成法や
TCID₅₀法にて残存
ウイルスカ価を測定



例：繊維類の抗ウイルス試験方法例 (ウイルス液吸収法、ISO 18184)

作った抗ウイルス繊維の抗ウイルス活性値を測定したい場合

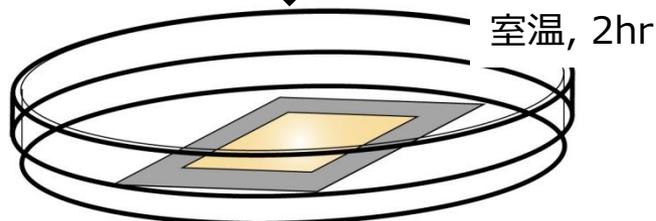
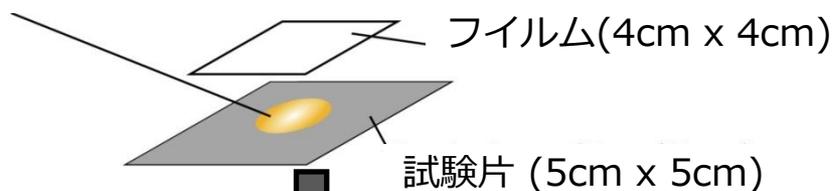


例：プラスチックの抗ウイルス試験方法例

(JIS Z2801 フィルム圧着法をウイルス試験に調整)

プラスチックやアルミ板、ガラスなど
吸水性のない素材の抗ウイルス活性を評価したい場合

ウイルス液(1×10^7 pfu/mL, 0.4 mL)



SCDLP 抽出(10 mL)

10倍段階希釈

プラーク形成法や
TCID₅₀法にて残存
ウイルスカ価を測定

